

隣接施設  
紹介



**重文 長谷川邸** 越後最古の豪農の館で享保元年(1716年)の建物です。

- 有料**
- 開館期間 / 4月1日～11月30日(毎日)
  - 観覧時間 / 9:00～16:30

昔ばなしとほたるの館  
(塚山活性化センター)

民話やホタルの生態、観光施設などの紹介を行っております。(向館内に飲食施設もあります)



昔ばなしを語りべが、その土地の言葉と独自の口調で語っている映像と代表的な昔ばなしをアニメーション映像で楽しく鑑賞することができます。

**入館無料** 開館期間及び時間 年中無休(但し、年末年始は休館) 9:00～16:30

長岡市越路地域  
**三波春夫顕彰碑**  
交通のご案内



国民的歌手として、全国のファンを魅了して、やまなかつた三波春夫さん。今、ふる里の自然にまもられながら、大好きだった「越路」を静かに見つめています。

交通アクセス



顕彰碑位置図



★塚山駅から徒歩15分

国民的歌手として、全国のファンを魅了してやまなかつた。人を愛し、ふる里を愛し続けた。

三波春夫



三波春夫顕彰碑

新潟県長岡市塚野山

お問い合わせ information

三波春夫にかかわることは

(株)三波クリエイツ

TEL. 03-3868-2511

URL <http://www.minamiharuo.jp/>

CDやカセットテープ、ビデオ等にかかわることは

(株)ティクエンタテインメント営業企画部

TEL. 03-5778-1710

顕彰碑や越路の観光にかかわることは

長岡市越路支所 産業課

TEL. 0258-92-5903 FAX. 0258-92-6942

URL <http://www.city.nagaoka.niigata.jp>

E-mail: [ksj-sangyo@city.nagaoka.lg.jp](mailto:ksj-sangyo@city.nagaoka.lg.jp)



# 三波春夫沿革

大正12年7月、本屋を営む北詰幸三郎・ミヨの三男として、新潟県三島郡塚山村塚野山（現長岡市塚野山）に出生されました。村一番の声自慢であった父の影響もあって子供の頃から歌のうまい少年でありました。

13歳で上京、米屋、製麺所、魚河岸で働くかわら、16歳で日本浪曲学校に入学、南篠文若の芸名で麻布六本木の寄席、新歌舞伎座で初舞台を踏み、一枚看板の座長として全国巡業の活躍を開始されました。

昭和19年出征、満州（現中国東北部）で終戦を迎え、その後シベリア抑留の辛苦を体験されました。厳しい労働の合間に浪曲・演劇・歌を創作し演じたその四年間は、自分にとっては人生の道場であったと述懐されています。

帰国後浪曲家として復帰、昭和27年結婚されたゆきさんの三味線で浪曲二人の中で「大衆芸術は浪曲だけではない。今、大衆が喜び、待っているのは歌だ。」と歌に人生を賭けることを決意、浪曲の仕事全て断って歌のレッスンに情熱を注がれました。

昭和32年、「チャンチキおけさ」でデビュー、ゆき婦人がプロデュースした“和服姿”の、男性歌手一番手としての三波春夫の誕生でありました。以後、「雪の渡り鳥」「東京五輪音頭」「世界の国からこんにちは」長編歌謡浪曲「俵屋玄蕃」と立て続けに大ヒット、国民的歌手としての地位を不動のものとされました。更に歌藝の道に精進され、日本レコード大賞特別賞、同企画賞、文化庁芸術祭優秀賞を受賞されました。

昭和60年旧越路町は名誉町民の称号を贈りました。翌61年に紫綬褒章を、平成6年には勲四等旭日小綬章を受章されました。

平成13年4月14日逝去。同日新潟県民栄誉賞が贈られました。

「お客様は神様です」の名台詞とともに国民的歌手として多くの人々に親しまれ、日本の心を歌いつづけた三波春夫氏の明るく澄んだ歌声は、国民の皆さんの心の中にいつまでも響きわたるものと確信をしております。

ふるさとを愛し、郷土発展に尽くされた数々のご功績を称え、三波春夫氏を敬仰する町民の皆さんや全国の多くのファンの皆さんと、関係各位のご協力を得てここに銅像並びに歌碑を建立し、その遺徳を広く永く伝えるものであります。

平成14年4月14日

新潟県越路町長 大野 勉  
三波春夫顕彰事業実行委員長 米山 稔

## 顕彰碑概要

- ◆銅像 高さ225cm 台座(桜御影石) H175cm
- ◆歌碑 黒御影石 / H185cm
- ◆句碑 伊達冠石 / H195cm
- ◆沿革碑 黒御影石 / H165cm

三波春夫は、ふるりの自然にまもられながら、大好きだった「越路」を静かに見つめています



顕彰碑全景



銅像



沿革碑



歌碑 「チャンチキおけさ」「雪の渡り鳥」「越路盆唄」「東京五輪音頭」「世界の国からこんにちは」を聞くことができます。

一月がわが越路地裏の  
屋敷の一角のほらに  
知らぬ同志が小唄叩き  
チャンチキおけさ  
おけさせつせややうせやや  
ニひとり残したあはれ  
運命を運ぶかおけさ  
すまぬすまぬと能くか  
チャンチキおけさ  
おけさおけさ身をおけさ  
三波春夫のふるり  
大きなふるりを  
そと深きふるり  
チャンチキおけさ  
おけさおけさ  
作詞 米山 稔  
作曲 長瀬 武司

ふるりの  
俵屋玄蕃も  
磨き上げた  
越路の道  
上段

美しき山  
やに笑顔  
ありまじや  
わがふるり  
下段

平成12年11月末 旧越路町での公演を終えて帰京の後いただいた句



句碑

